



第11回 かながわ教育学講座

平成31年を迎えました。1月20日(日)の午後、第11回かながわ教育学講座を開講しました。今回のテーマは「教員という仕事の魅力と責任」です。

シンポジウム「教員という仕事の魅力と責任」

かながわティーチャーズカレッジを修了し、学校現場で活躍されている5名の先生方をお招きし、大講堂にてシンポジウムを行いました。藤井 高志 教育指導専門員の進行のもと、教員という仕事の魅力と責任について思うことや、かながわティーチャーズカレッジで学んで役立ったこと、後輩である受講者におすすめしたいことなどについて話をさせていただきました。

学習内容の一つひとつが子どもたちの人生に影響を与えていくという点が、責任の重いところだと思います。しかし、子どもたちの人生に大きく関わることができるという点では、魅力でもあると感じています。カレッジ生にぜひおすすめしたいこととして、自分はこれが得意と胸を張って言えるものがあるといいと思います。

カレッジで学んで役立ったことはスクールライフサポーターの活動です。子どもたちと直接関わることができるという点だけでなく、現場の先生方と繋がりを築くことができるという点でもとても有意義であると感じます。



逗子市立池子小学校
小日山 由香 教諭



二宮町立二宮西中学校
古澤 優樹 教諭

実践力向上講座を通して、教育実習以外に学校現場を見る機会をいただけたことで毎回のカレッジの学びが深まりました。現場のイメージを思い出しながら毎回のカレッジの講義を聞くと、講義で学んだことを現場でどう生かすか考えながら聞くことができ、とてもよかったです。大学で授業を受けるときや、自分で本を読んで勉強する時にも、この経験がとても役に立っています。

教育学講座だけでなく、進んでボランティアに行ったり、本を買って読んだりして自ら学ぼうとしていく姿勢をもち続けることが大切だと思います。

カレッジで出会った仲間とは、今でも交流があります。カレッジを通して思いを交わし合いながら、助け合える仲間へと関係が築けたことは、自分のモチベーションの向上に繋がりました。

また、分からないことをそのままにせず、学んだことを記録に残しておくことをおすすめします。カレッジではもちろんですが、学校現場の先輩の先生方は、忙しい中でも時間を作って色々なことを教えてください。教えてもらったことは、逐一、記録に残し、次に生かせるようにしていくとよいと思います。



県立城郷高等学校
町田 幸子 教諭

どのようなことを経験して、学んだら、児童・生徒のできることを増やせるのかと日々、考えながら指導しています。だからこそ、指導・支援によって児童・生徒に成長がみられた時は「教員になってよかった」と心から思います。

みなさんにおすすめしたいことは、総合教育センターの研究発表大会に参加することです。発表内容がとても勉強になるため、私は今も、毎年参加しています。また、根拠のある指導をしていくためにも、学習指導要領を熟読し、指導の軸として理解しておくこともおすすめします。



県立三ツ境養護学校
赤瀬 温子 教諭



県立綾瀬西高等学校
塚越 祐希 養護教諭

養護教諭としての視点だけでなく、先生方がどのようなことを考えて指導しているのか知ることができたのはカレッジでの大きな学びでした。

学校現場で働く今、自分の発した言葉が生徒や保護者に大きく影響を与えることを実感しています。生徒が社会に向けて希望をもてるように、一つひとつの言葉を大切に、身近な大人として手本となる言動をとることが、教員の責任であると思います。また、喜びや悲しみを共有しながら生徒の頑張りを間近に見ることができ、力をもらうことができるのが教員という仕事の魅力だと思います。

講義「教員へのはじめの一步～教員のコンプライアンス～」

講師：神奈川県教育委員会 行政部行政課長 石塚 裕之

「コンプライアンス」とは、「法令遵守」のことですが、法令だけにとどまらず、社会的なルールなどを含め遵守するとの意味合いで使われることが多いです。

教員という職業は、子どもたちの成長を間近に見ながら、幸福で充実した人生を実現できるよう支援する、魅力のある職業です。だからこそ、「教育活動を行う公務員」として、勤務時間の内外を問わず、常に教員としての自覚をもち、一般の公務員よりも一段と高い倫理観やモラルが求められます。

教員となる前から、自立した人間として行動することが大切だと講師から話がありました。教員という仕事の責任について考え、その重さを自覚することができたのではないのでしょうか。

グループ活動

後半のグループ活動では、シンポジストの話を受けて、教員という仕事の魅力と責任、身に付けるべきこと等を踏まえ、自分のめざすべき教員像を再確認しました。今回は、マンダラートを用いて考えました。3×3のマス中央に、考えるべきメインテーマを書き、関連することを書いてマスを埋めていくことにより、アイデアを整理し、思考を深めていく発想法です。

「めざすべき教員像」をもとに、自分のめざすべき教員像とそのためすべきことを書き出しました。その後、書き出した事柄の中で、さらに広げ深めていきたいものについて、新たなマンダラートに書き起こし、「授業が分かりやすい」「誠実で真摯な対応ができる」「児童・生徒に信頼される教員になりたい」など、それぞれがめざすべき教員像を深めることができました。

明確にできた自分のめざすべき教員像の実現に向けて、向上心をもって学び続ける姿を大切にして頑張ってもらいたいです。

